

スクロール劇場 II.

兵六物語

ひょうろくものがたり

原作. 毛利正直

画(模写). 五十嵐三石



① むかしむかしのお話です。

鹿児島島の吉野に住む大石兵六という若者が、なかまたちと話しています。

「吉野の山に住む狐^{きつね}たちが、いろんなものに化け

ては悪さをしている。退治^{たいじ}せねばならない」

「しかし、敵は数も多く、なかなか手ごわいぞ」

「もし退治できたら、どんなほうびでも取らせるぞ」

ならばと兵六、勇^{いさ}んで名のりを上げます。



② 一方こちらは狐たち。さっそく話を聞きつけて、

作戦^{さくせん}会議^{かいぎ}に入ります。

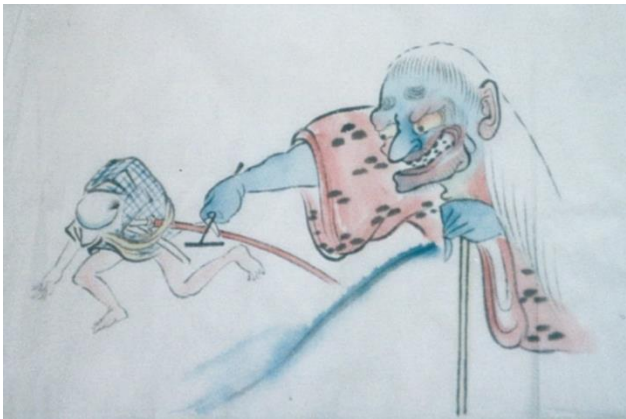
「敵はわずかに兵六ひとり。こちらは数十匹。さらに吉野は、たんたど、川上、花棚、実方とオオカミでも難所が多く、人に何ができるものか。山には

虫もたくさんいるし、われわれには兵糧^{ひょうろう}攻め^せはき

かないぞ。万一の時は、紫原や原良、さらには曾於の狐たちにも助けてもらおう」



- ③武者ぶるいしながら兵六は、実方のたいこ橋を渡ります。あちこちの野山に鬼火のように、花のさかりのように、はなやかな景色が見えているのは幻か。



- ④最初の化け物があらわれます。

「おれは茨木童子だ!」

目は真っ赤、口は耳までさけており、熊手と綱で兵六を攻めてきます。

とたんに戦う気をなくしたわれらが兵六、早くもまさかの逃走劇。



- ⑤帯迫で次の化け物があらわれます。

「われは目一つ五郎次なり!」

なるほど一つ目で鼻が高い、大きな山伏です。化け物は兵六を食おうとしますが、ひたすらお経をとなえる兵六。そのうちに、戦う気になった兵六、「化け物め!」

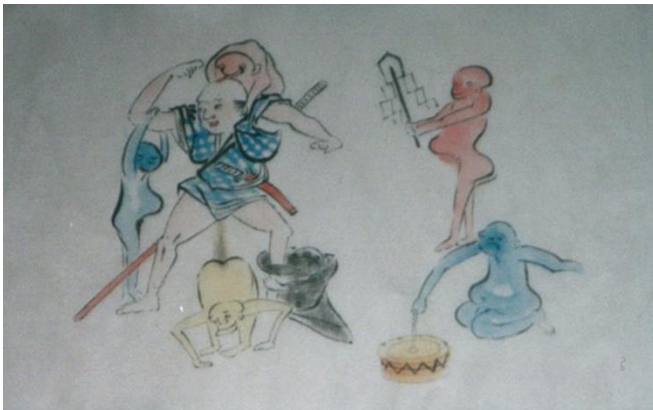
と斬りつければ、ぱっと火が立ってその正体は石仏でした。



⑥茶屋の二人づれの女と話していると、いきなり首がよろよろと伸びていき、ろくろ首の化け物、
まつかぜむらさめ松風村雨と分かります。ひよろりと出た舌先にな

められるのは異様な恐怖!

われらが兵六、戦うこともできず、ただただ泣くばかり。



⑦菖蒲谷まで逃げてきた兵六、気づくと誰かが後をつけてくる。

「ぼくはねえ、鞍馬坊主だよーん」

斬っても突いても、すでに捕まえようとしてもものりりりとかわす鞍馬坊主、やがては黒、赤、黄の小坊主どもが現れて、体にまとわりついて離れない。

こまった兵六、とっさにお経を唱えると、塩をかけたなめくじのように消えていってしまった。



⑧なんとか逃れて、松の木陰にかくれていると、腹がトラのもようをして、火をはくガマガエルの化け物が現れます。

「わしこそが牛わく丸じゃ!」

兵六、とほうにくれて戦う気をなくし、かといって逃げ出すこともできず、またしてもただただ泣きわめくばかり。

⑨それでもなんとか逃れて、関屋の谷まで来たところで、橋の下から巨大なカニの化け物が現れます。



山部赤人ならぬ山辺の赤蟹^{あかに}と名のるこの上品な怪物は、兵六を食べる前に和歌^{わか}を送ります。

おぼえのある兵六も、泣きながら歌を返すと、その出来ばえにいたく感動した赤蟹、

「でかしたぞ！」

と言って、兵六を捕らえたはさみをゆるめてあげる

のでした。

⑩これらの化け物はすべて狐どもの悪ふざけ。何度も何度もだまされて、疑うことしかできなくなった

兵六、旅の途中の美しい姉妹二人^{きょうだい}もあやしいと思

い、斬りかかり、お菊^{きく}を捕まえます。桔梗^{ききょう}は逃

れて、役人に訴え、やがて兵六は犯人として捕らえられてしまいます。



⑪おこった役人、もはやその場で手打ちになろうか

いうところ、たまたま通りかかった和尚^{おしょう}さんに助け

られ、兵六は危機^{きき}一髪^{いっぱつ}で救われます。





⑫和尚のなさげに、すっかり心を入れかえた兵六、お坊さんになることを決め、体を清め、頭をそり上げます。狐どものインチキ読経^{どきょう}が続き、最後に爆笑^{ばくしょう}が起こると、そこにあるのは、ただの広い野原のみ。

ぽつんと取りのこされた兵六は、ことの次第^{しだい}を知り、ただただくやし涙にくれるのみ。



⑬今度こそはと目の色を変え、復讐^{ふくしゅう}をちかう兵六。

見知らぬ地蔵^{じぞう}が二つあり、書き込まれた文字もどうもあやしいと、これに斬りかかります。やはり正体は狐。今度こそ、狐どもをしっかりと引き寄せて、二匹そろって退治しました。



⑭町にもどると、兵六の坊主頭^{ぼうずあたま}はなかまたちから、

冷やかされます。

それでも兵六は

「敵の古狐^{ふるぎつね}を二匹も倒したんだから、大したもん
だろう」

と胸を張るのです。

めでたし、めでたし。